

タイトル「日本と南アフリカ、知られざるポテンシャルの高さ」

講師の澤野新一朗氏は写真家、サウンドクリエイターであり、現在は南アフリカの日本で観光大使でもある。マラウィ政府観光局内に写真部門を設立するために1986年から2年間マラウィに駐在した。当時アパルトヘイト政策をとっていた南アフリカと外交関係を持っていたのはアフリカ大陸ではマラウィが唯一の国。そこで出会った南アフリカの観光パンフレットの紙面一杯に広がる花園に澤野氏は釘付けになり、いつかこのような花畑を訪れてみたいと思っていたが、念願がかなったのは1991年だった。3か月半かけて南アフリカを周って以来毎年南アフリカを訪れるようになり、1998年からは年に一度だけ10名限定のツアーで南アフリカの秘密の花園を案内している。

ということで、花のスライドをたっぷり紹介していただいた。最初はフィンボス地域に咲く南アフリカの国花となっているキングプロテア。この花は直径30センチにもなる。次は、行政上の首都であるプレトリアのジャカランダ。街路樹であるジャカランダは10月頃街中を青紫の花に染め上げ、日本人観光客にとっても人気がある。

そして、「神々の花園」と銘打たれたケープ地方のナマクワランド。一般には殆ど知られていない花の楽園だ。というのは、雨季の後のほんの10日間くらいだけしかその花園を現さないからだ。その間は見渡す限りの風景が花で覆われる。乾季が長く樹木類はほとんど育たないので野生の花が咲く時期以外は半砂漠のようだ。ただし、その地面には1平方メートルあたり1万5000もの球根と数えきれない花の種子があり、年々の気候により咲く花が異なる。つまり、訪れるたびに違う花園を見ることができるといえるのだ。実際に訪れ自分の目で見ることであれば素晴らしい体験になるだろう。ツアーに参加された方たちが花だけでなく、夜空の星や自然の豊かさに触れ元気になる姿を見て、この溢れるエネルギーを伝えたいと澤野氏は語った。

花園の紹介の後に、澤野氏はこの数年間の南アフリカとの関係に触れた。一つは、現在の元大統領夫人であるムベキさんの招きにより、彼女が始めたマイクロクレジット（小口融資）による女性の自立支援の取材をし、日本でシンポジウムを開催したこと。また、日本レストランやアニメは人気があること。そして、生け花や日本庭園などの日本の文化や伝統に造詣の深い南アフリカの人々との草の根の交流を続けていること…など。

2009年以降は中国が貿易でも観光でも日本を逆転し、規模的には中国が日本の10倍になっているが、日本のイメージや日本人観光客の評判が良く、日本人一人ひとりが日本を代表する大使のつもりで南アフリカの国と人々に接すれば、二か国の関係はより親密で緊密なものになっていくのではないかと締めくくられた。

以下は、澤野氏が撮られたナマクワランドの花園の写真。詳しくは彼のホームページ(<http://shinsawano.com>)を参照してください。

